



Data

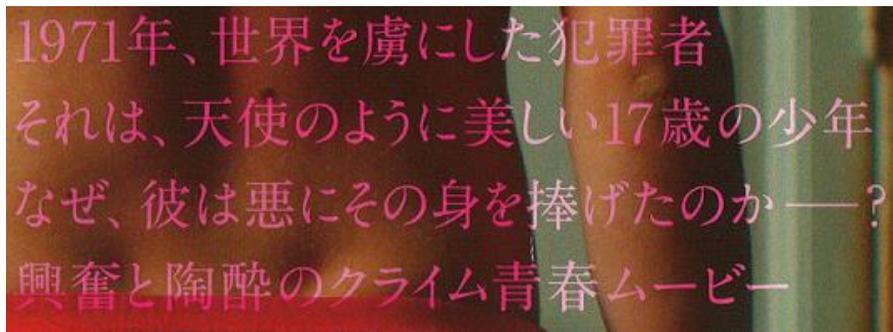
監督：ルイス・オルテガ

出演：ロレンソ・フェロ／チノ・ダ
リン／ダニエル・ファネゴ／
セシリア・ロス／メルセデ
ス・モラーン／ルイス・ニエ
ッコ／マレーナ・ヴァラ

■ショートコメント■

◆本作のチラシには次の見出しが踊っている。

1971年、天使の顔をした殺人犯に世界は発情した。
アルゼンチン映画 NO.1 を記録した妖しく美しいクライム青春ムービー。衝撃の実話。

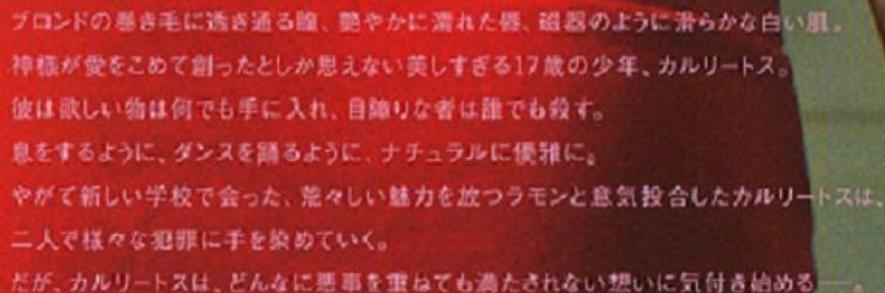


◆“天使のように美しい少年”を主人公にした映画はたくさんあるが、1971～72年にかけて、アルゼンチンのブエノスアイレスでは、「黒い天使」と呼ばれたカルロス・ロブレド・プッチが強盗と殺人を繰り返していたらしい。このカルロスは、メディアから「ジャッカル」、「童顔のモンスター」などと呼ばれ、ある警官は「まるで青年版のマリリン・モンローのような美しさだった」と語っていたそうだ。

日本では、私の中・高校時代に「美しい十代」でデビューした歌手・三田明が「最高に美しい顔」と絶賛されていた。たしかに、ルイス・オルテガ監督がこのカルロス・ロブレド・プッチにインスパイアされて、本作でスクリーン上に登場させた少年カルリートスを演ず

るロレンソ・フェロの美しさは抜群だ。

◆チランには、本作のストーリーが次のとおり紹介されている。



ブロンドの巻き毛に透き通る瞳、艶やかに濡れた唇、磁器のように滑らかな白い肌。
襟裾が愛をこめて割ったとしか思えない美しすぎる17歳の少年、カルリートス。
彼は欲しい物は何でも手に入れ、自陣りな者は誰でも殺す。
息をするように、ダンスを踊るように、ナチュラルに優雅に。
やがて新しい学校で会った、荒々しい魅力を放つラモンと意気投合したカルリートスは、
二人で様々な犯罪に手を染めていく。
だが、カルリートスは、どんなに悪事を重ねても満たされない想いに気が始める――。

◆本作をどう理解し、どう解釈するかは難しい。この主人公を「魅力的！」などと言っ
てはえらいことになるし、逆に「精神異常！」と片付けてしまうのも気が引ける。さて、
あなたは『永遠に僕のもの』という邦題と共に、本作をどう解釈？

2019（令和元）年8月23日記